放送大学通信 オン・エア

発行月 2011年12月

_	
_	

	The second
BSデジタル放送について	1
今秋の放送大学の国際活動について	5
コース別座談会	6
VOICE OF STUDENT第4回	10
2012年度開設改訂科目紹介	14
学習センターだより	18
トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19

BS digital broadcasting

BSデジタル 放送への期待等間等

インフォメーション



2011年10月1日より、放送大学BSデジタル放送 が開局しました。これで全国どこからでも容易に放 送大学の放送が見られるようになりました。かつて 放送大学はBSアナログ放送に参入しようとしてう まく行かず、止むなくCS放送を利用するに至った 経緯があります。その意味で、今回のBS開局は放 送大学の長年の夢がかなったものとも言えましょう。

BSデジタル放送への期待の第一は、先にも述べ たように、まずは放送大学の学生に対する利便性の 向上があげられると思います。BSデジタル導入に より主として地デジで放送教材提供を受けている南 関東の学生と同一のサービスが受けられるようにな りました。すでにCSを利用されている方にはアン テナなどの設備の更新などがあり、必ずしも納得で きないものがあるかと思いますが、放送大学の長い 将来を考えるとCSに比べBSの方が視聴に対する壁 が低いことは言うまでもないことかと思います。

第二の意義は、放送大学に属していない方々に 対する認識度が高くなることにあります。ご承知 のように、放送大学の講義は他のいくつもの大学 の先生方が利用するぐらい、その質が評価されて

おります。その意味で、一般の方が無料で放送大 学の質の高い教育を見ることができるような環境 を用意することは、運営費のかなりを税金でまかな われている放送大学として、重要な責務であると感 じています。近年、教育界、特に高等教育の世界で OER (Open Educational Resources) という言葉 が使われるようになってきました。これは教育素材 を無償で提供しようという動きですが、放送大学は すべての科目を公開しており、まさに最初から OERを実現してきた大学と言えましょう。

第三はやや副次的なことですが、大学が一般の方 によく見えるようになることから、放送大学への理 解が深まるであろうという期待があります。放送大 学の名前からNHKの大学とか、放送技術を教える 大学などと勘違いされることは、本学の学生や教職 員が常々経験していることであります。しかし、 BSに常時現われるようになると、こうした誤解は 急速に減っていくのではないかと期待しております。 さらに副次的ですが、認知度の向上につれ、学生数 が増える可能性が高いことがあげられます。副次的 と書きましたが、実は経営上も極めて重要なポイン

トです。

第四は、データ放送の機能を利用して、放送大学から学生に対する掲示板機能を充実することができます。放送大学からの情報は従来、主として、郵便やネットワークにより伝えてきましが、郵便は即時性に乏しいこと、ネットワークは利用者側が能動的にならないと見えないといった問題点があります。これに対し、データ放送は、「データ」というボタンを押す程度の能動性は必要とされるものの、テレビの

科目と合せて、こちらからの大きな働きかけがなく てもほぼ受動的に見ることができます。さらにデー タ放送部分を利用して、簡単な自習用クイズを解く ような講義設定も可能となります。つまり、ドリル 付き講義ができるようになるのです。こうした新た な機能にも教育機関としての大きな期待があります。

長年の夢であったBSの実現により、放送大学が 益々発展していくことを期待しています。

特集

BS digital — broadcasting

BSデジタル放送 開始記念特別番組を放送



2011年10月1日、放送大学はBSデジタル放送をスタートしました。これにより全国一斉に高品質な映像音声とデータ放送やマルチチャンネルなど多彩なサービスを提供できるようになりました。

開局当日の10月1日にはBSデジタル放送開始を記念して、放送を視聴している学生のみならず、全国の一般視聴者に放送大学を知っていただくように、特別番組が放送されました。特別番組のラインナップは「BSデジタルいよいよスタート!」「今、よみがえる名講義~放送大学アーカイブス~」「学ぶ仲間たち」「語り合おう!放送大学」などです。「今、よみがえる名講義~放送大学アーカイブス~」は小沢昭一

氏や西部邁氏などによる過去の名講義の名場面を 紹介しました。「学ぶ仲間たち」は地震や津波で被 害を受けたにもかかわらず学びへの情熱を持ち続け ている学生を含めて、様々な環境で学ぶ全国各地の 学生を紹介しました。

「語り合おう!放送大学~学び続けるよろこび~」はパネリストとして、岡部学長、白井理事長、松村図書館長そして放送大学で学んでこられた林文子横浜市長と、20代~80代の放送大学の学生代表とが一堂に会したシンポジウムの模様を放送しました。「生涯にわたって学び続けるすばらしさ」や「これからの放送大学」について熱心な意見交換をしました。



「語り合おう!放送大学~学び続けるよろこび~」収録の様子

「語り合おう! 放送大学~学び続けるよろこび~」は、2012年1月1日(日)正午~、2月20日(月)夜10時15分~、再放送を予定しています。

学生代表の皆さん。左から本宮さん、野中さん、岡崎さん、橋本さん、秋山さん。



BSデジタル放送開始記念特別番組内でも放送しま した学歌制定当時について、2007年3月まで専任教員 であった徳丸吉彦客員教授のご寄稿を紹介します。

放送大学学歌について 徳丸吉彦

放送大学の放送システム変更を 記念する「大学の窓」の特別番組が 平成23年10月1日に放送されました。



私は、芸術学の青山昌文教授と佐多光昭ディレクターから、その番組の中で放送大学学歌について話をして欲しいとの依頼を8月に受けました。学歌ができた頃、私は放送大学客員教授として、故・柴田南雄教授とともに『民族音楽』という授業を担当しておりましたので、多少の事情は聞いていました。しかし、どのような手続きで学歌が制定されたかは知りませんでした。そこで、柴田家に連絡をし、奥様の柴田純子氏(スペイン文学)に資料が残っていないか調べて頂きました。奥様はすぐに、「学歌関係」として柴田先生が整理しておかれたファイルを探して下さいました。そのお蔭で当時の経緯が分かってきました。特別番組の収録の際に佐多ディレクターと魚山一馬ディレクターにお話ししましたが、今後のために、少し詳しく記させて頂きます。

放送大学は1985年に学生の受け入れを始めましたので、4年後の1989年春には最初の卒業式が予定されました。そこで、1988年10月13日の教授会において、「校旗及び校歌検討委員会」の設置が決められました。教授会に案として提出された委員の名前を、当時の職名で記します。柴田南雄教授(委員長)、甲田和衛副学長、小尾信彌教授、古田東朔教授、長坂建二助教授、浜口允子助教授です。委員会を作った目的は、「大学が主催する卒業式等において使用するため、校歌及び校旗を制定すること」で、第一回卒業式(昭和64年4月27日)までに制定することを目途に検討を行うことになっていました。校旗については、今回調べておりませんので、当時の委員のお一人であった浜口先生(現・放送大学名誉教授)に教えていただければと思います。

委員長の柴田先生は、学歌の作詞を尊敬していた詩人の那珂太郎氏に依頼しました。柴田家のファイルから、次のことが分かりました。1988年11月には那珂氏が放送大学を訪問し、柴田教授の案内で、学習センターやスタジオを見学されました。また、那珂氏は柴田教授担当『音楽史と音楽論』のテレビ教材を毎日視聴されて、古今東西にわたる講義に感銘を受けられ、そこから放送大学の意義を汲みとられました。

那珂氏は早くも12月2日付けの書簡で、完成した作詞を 柴田家に送付されています。なお、那珂氏は詩作では歴史 的仮名遣いを用いておられますが、学歌の性格を考慮されて、これを変更しても構わないと伝えられ、さらに「糧(かて)」や「展(ひらく)」などの漢字も、平仮名にしてもよいと指示されています。

那珂氏の歌詞を得て、柴田先生は作曲に取りかかり、翌1989年1月21日に旋律を完成し、自筆譜にこの日付を記しています。(私が放送大学に勤務していた2002年には、この自筆譜と那珂氏の自筆原稿は額に入れられて理事長室に置かれていました。)やがて、伴奏の部分も出来上がり、多くの柴田作品を初演してきた東京混声合唱団が田中信昭氏の指揮で演奏することになりました。1989年3月6日午後2時半から、本部制作棟ブルースタジオで発表会を行い、午後3時から郡司ディレクター担当のもと、収録を行いました。この発表会には、理事長、学長、理事、副学長、制定委員全員、課長以上の事務局職員の参加が要請されました。発表会では、まず柴田委員長が挨拶をされ、次に演奏が行われ、最後に香月秀雄学長が感謝の言葉を述べられました。

こうして、那珂太郎氏(現・日本芸術院会員)と柴田南雄 氏(後に、文化功労者)という二人の優れた芸術家による 作品が、放送大学の学歌として正式に認められ、歌い続け られることになりました。

作曲家としての柴田先生は、12音技法や電子音楽、あるいは、演奏者が劇場内を移動するシアター・ピースによって、前衛音楽を牽引しました。しかし、どのような音楽も人間の長い音楽史の中に位置づけようとし、講義でもこの方針を貫きました。

自分の曲が歌われるのを聴くのが大好きだ、と柴田先生はよく言っておられましたが、校歌の作曲はあまりされませんでした。その代わり、アマチュアとプロを区別せず、合唱団のためには多く独創的な作品を作曲されました。それらの作品は、演奏者たちと聴き手が、「共にあること」を強く意識することができるように作られたものです。

10月1日の特別番組では、岡部洋一学長が指揮をされ、 合唱の中には、図書館長の松村祥子教授、天文学の吉岡 一男教授の姿も見えました。「共にあること」をさらに強く表 した今回の演奏を見ながら、柴田先生にもお見せしたかった と私は何度も思いました。

なお、柴田・那珂両氏のやり取りを含めた作曲のことを、柴田先生が『ON AIR』 第14号に記しておられます。







2011年10月、BSデジタル放送を開始しました。 放送受信等に関するさまざまなご質問にお答えします。

② いま持っているテレビで BSデジタル放送を受信できますか?

A BSデジタル放送のチューナーが内蔵されていれば、BS受信アンテナを準備するだけで受信できます。集合住宅などの共同受信アンテナでBSデジタル放送を受信できる場合は個別にアンテナは必要ありません。詳しくは、機器によって異なりますので、現在、お持ちの機器については説明書をご覧の上、ご不明の点はご購入電器店もしくはメーカにお問合せください。また、新たに購入する場合は電器店・家電量販店等にご相談下さい。

Q

マンションでの受信方法は?

A マンションの共同受信端子 (テレビ端子) が部屋の中に設置されています (現在、テレビと接続している端子) ので、その端子 へ接続してください。もし、BSデジタル放送対応受信機 (テレビやBSデジタルチューナーなど) を接続しても受信できない場合は、マンションの管理者様へ共同受信設備がBSデジタル放送に対応しているか、お問い合わせください。

現在CSデジタル放送を 受信されている方

※2012年3月末にCSデジタル放送は終了します。

Q CS(スカパー!)とBSデジタル放送の 両方に対応しているチューナーや アンテナはありますか?

- A 現在のところチューナーについてはありません。アンテナについては、スカパーJSAT社が販売しているスカパー! (SD/HD) 及びBSデジタル放送を受信できるマルチアンテナがあります。詳しくは、お近くの電器店・家電量販店などへご相談ください。
- Q BSデジタル放送を視聴する場合、 どのくらい費用がかかりますか?
- A アンテナ、チューナーについては、お住まいの地域、購入時期、購入店、メーカなどで価格が異なりますので、詳しくは、お近くの電器店・家電量販店などへご相談下さい。なお、アンテナを設置する場合には、別途アンテナ設置料もかかります。
- OCS(スカパー!)放送アンテナ、チューナーで、 BSデジタル放送は見られますか?
- A スカパー! (東経124度、128度CS) 用のデジタルチューナーや、 専用のアンテナではBSデジタル放送を受信することはできません。

テレビ 231 ch.

ラジオ 531 ch.

Q

BSデジタル放送を録画する方法は?

A BSデジタル放送に対応した録画機を使用するのが一般的ですが、現在、お持ちの機器については説明書をご覧の上、ご不明の点はご購入電器店もしくはメーカにお問合せください。また、新たに購入する場合は電器店・家電量販店等にご相談下さい。

BSデジタルラジオ放送を聴くには、 どうすればよいか?

A 最初にお手元のリモコンで [BS] に切り替えてください。 選局方法については以下の方法があります。

[方法1] 放送番組表 (EPG) の欄で番組を選択

[方法2] テレビ (231ch) を選択した後に、リモコンの「データ放送」のボタンを押すと、データ放送画面に「BSラジオ放送へ」というボタンが出てきますので、そのボタンを選択。

[方法3] リモコン3桁入力やダイレクトボタンから放送大学のチャンネル (531ch) 入力

※なお、テレビやリモコンの各種設定や操作方法は、メーカー・機種によって異なるため、テレビの取扱説明書をご覧いただくか、メーカー、電器店等にご相談ください。

現在**ケーブルテレビ**で 受信されている方

- A BSデジタル放送の開始に伴い、CATV会社に対しては、本学より引続き放送大学の番組を放送していただくようお願いしてまいりますが、実際に放送されるかどうかはCATV会社の経営判断によるものです。恐れ入りますが一度ご利用のCATV会社にご相談下さい。
- BSで放送大学の番組を視聴するために、 新たにCATVに加入した場合、 どのような費用が発生しますか?
- A 放送大学の番組は無料ですが、CATVへの加入にあたって、一般的には初期費用として加入料、工事費に加え月額の利用料が必要になります。詳しくはご利用(予定)のCATV会社にお問い合わせ下さい。

ご不明な場合は、放送部企画管理課総務係まで お問い合わせください。

電話: 043-298-4317 平日9:00~18:00 (土日祝を除く) メール: h-kikan@oui.ac.jp

今秋の放送大学の 国際活動について

ICT活用・遠隔教育センター 教授 青木 久美子

今年9月から10月にかけては、本学が直接関係する国際 行事が3つありました。まず、9月19日(月)には、今年で3回目 を迎える日中韓セミナーが北京の中国職工之家(職人の 家)ホテル(China People's Palace Hotel)で開催されま した。この日中韓セミナーは、2009年に韓国放送通信大学 校(KNOU)主催で韓国ソウルにて第一回が開催され、昨 年度は、本学主催で放送大学附属図書館にて第二回を開 催しました。今年は本学からは、岡部洋一学長、苑復傑教 授、大橋理枝准教授、中泉章国際連携係員が参加し、総 勢30名もの参加者があったということです。

9月28日(水)から30日(金)は、マレーシアのペナン 島にあるワワサン公開大学で第25回AAOU(Asian Association of Open Universities) 大会が開催され、本 学からは、岡部学長、山田恒夫教授、松村祥子教授、井口 篤准教授、森本容介准教授、三浦正克図書情報課長、島



竜一郎総合戦略企画室 長、神研二郎国際連携係 長、白川ハルディン啓子国 際連携係員、そして私の 計10名が参加しました。ワ ワサン公開大学は、海を

一望できる元中国富豪の大屋敷を改築して作られたもの で、ユネスコの世界文化遺産であるジョージタウンに位置し ています。今回はこのワワサン公開大学のキャンパスで AAOU大会が開催され、大会開催の3日間は、大講堂で 行われた基調講演や招待講演、各教室で行われた分科 会の発表セッションはもちろんのこと、地元の名物料理や、 民族舞踊、太鼓やオーケストラによる演奏など、様々なエン ターテイメントでも参加者を楽しませてくれました。研究発表 においては、本学からはプレコンフェレンスのパネルディス

カッションで山田教授が、また、分科会 のセッションでは森本准教授と私がそ れぞれ発表しました。このAAOU大会 は、来年度、本学が主催することもあっ て、今回はその下調べも兼ねての参加 という意味合いがあったとともに、来年 度の大会においてより多くの参加者



を誘致する目的があり、会場内に特設ブースを設け、本 学と第26回AAOU大会のプロモーションを行いました。閉 会式の最後には、岡部学長が、次年度主催校代表として 舞台にあがり、今年3月に起こった東日本大地震の本学へ の影響、そして、来年度AAOU大会の本学での開催確 定に至る経緯などを真摯に語られ、本学のプロモーショナ ルビデオを披露した後、本学からの参加者がそれぞれま なぴージャケットを着て舞台に上がり、好評を博しました。

最終日の屋外バーベ キューパーティの後に は花火も打ち上げられ、 3日間の行事が華やか に幕を閉じました。今回 のAAOU大会の参加 放送大学からの参加者によるプロモーション



者は68の機関から総勢350名ほどあったとのことです。

10月2日から4日までは、インドネシアの公開大学であるテ ルブカ大学の主催で、バリ島でICDE (International Council for Open and Distance Education)の世界 大会が開催されました。この会議はAAOUの世界版のよう な会議で、2年に1回開催されているものです。AAOUの参 加者の多数がこの会議にも参加しており、本学からも、 AAOUから続けて岡部学長、山田教授、井口准教授、島 総合戦略企画室長、神国際連携係長、そして私が、また、 新しく三輪眞木子教授が参加し、会議参加者総数は AAOUの2倍ほどでありました。今年度は、本学が、今回初 めて行われた学生など財政的支援の少ない参加者を助成 するフェローシップのスポンサーとなり、会場においても、また 配布のプログラムにも、本学の名前とロゴが掲示され、公開 大学のコミュニティの一員として胸を張って参加することが

> できました。分科会のセッションでは、山 田教授、三輪教授、井口准教授、私の 4名が、それぞれが異なるセッションで 発表をしました。本学は、我が国唯一 の公開大学であり、世界に数多くある 公開大学のコミュニティの一員である ことを強く実感した三日間でした。

> > 5



ワワサン公開大学ワン学長と岡部学長

古典から始まる知の冒険を

言葉も違えば時代背景・文化も違う古典。でも、現代ものにはない奥深さが…と解っていてもとっつきにくいのも事実です。コース別座談会2回目は、〈人間と文化コース〉の先生方にお集まりいただき、そんな手強い、でも魅力あふれる古典について、お勧めの西洋古典を3冊、日本の古典を1冊ずつ挙げていただきながら語っていただきました。

※本文中は敬称略とさせていただきました。

西洋古典1冊目

草光 古典は教養の根幹をなすものです。そこで西洋古典にお詳しい先生方に古典に触れる楽しみなどをお話していただきたいと思います。まず佐藤先生。佐藤 私は近代哲学の古典、カントの『判断力批判』を。『純粋理性批判』と『実践理性批判』で三批判書をなしますが、『判断力批判』が若い時から好きでした。他の批判書と違い、美の問題とか生命の問題といったあやふやなテーマを扱っており、それをどう捉えるかというところが非常に面白い。同時代の詩人ゲーテは"人生で最も幸福な時は『判断力批判』を読んだ時だ"と。ダーウィンとは異なる進化論を彼に先立って唱えてもいます。

宮下 私の1冊目はラブレーの『ガルガンチュアとパンタグリュエル』。大江健三郎が好きで、渡辺一夫という偉い先生がいるという文章を書いていて、それを機に渡辺の専門であるルネッサンス期フラン



宮下 志朗教授

ス文学を勉強するようになりました。その代表的なものがこの作品です。題名は耳にされた方は多いでしょうが、最後まで読まれた方は少ないのではないでしょうか。渡辺一夫訳はすばら

コーディネーター:

草光 俊雄教授(英国社会経済史·文化史)

佐藤 康邦教授(哲学)

宮下 志朗教授(フランス文学書物史)

井口 篤准教授(中世英文学)



しいものの、 訳者の教養 がありすぎ

て難解、漢字も難しい。ならば、と自分で訳し始めて、5冊のうち4冊まで刊行しました(ちくま文庫)。 巨人王の一族を巡る荒唐無稽な話ですが、古典の膨大な知識がちりばめられていて、ハマる人はハマってしまう。

草光 憧れの渡辺先生の訳をやり直すというのは相 当勇気が…。

宮下 確かに渡辺一夫訳は歴史的名訳です。でも シェークスピアを坪内逍遙訳で読む人はまずいない。 時代とともに言葉は変わりますから。そのように考 えてやらせてもらっています。

井口 私は自分の分野—中世の英文学からチョーサーの物語集『カンタベリー物語』を。チョーサーは外交官としてヨーロッパ中を巡って、イタリア・スペイン・フランス文学にも明るく世相にも詳しかった。彼の作品を読むと当事のヨーロッパの一大パノラマを見るようです。シャレや風刺が利いていて、時には猥雑で…その韻律は弱強五歩格で内容と形式の両面で味わえます。原書通りの中英語(中世の英語)で読むとその楽しさはもっと広がります。

宮下 韻文を日本語に直す場合、それに合わせて改行しますが、どう思います?

井口 賛否両論です。古代ローマの詩人ウェルギリ

ウスの『アエネイス』の長短々六歩格を日本語の七 五調に訳しているものもありました。

宮下 同じ韻文でもホメーロスの邦訳はそうしない。 まず読んでもらいたいと思ったら、私もしないだろ うなあ。潜在的な読者を失っているのかも。

井口 ヨーロッパ言語圏ではもう少し自由度があり ます。現代英語の弱強五歩格に訳したりできますが、 日本語では無理ですね。

草光 中世英語朗読の上手な先生がいて、出だし の "Whan that Aprill,…" なんて迫真ものでした。 今の英語とは違う面白さが確かにある。ところで 『カンタベリー~』はパゾリーニが映画に。ある意 味言葉は捨てて、物語と映像の面白さだけを追究し ています。…さて次は私。一番に挙げたいのがヘロ ドトスの『歴史』です。私はわりと新しい歴史学― 人々の生活とか風習など文化人類学的な考えを取り 入れた社会史 (social history) あるいは文化史と いうものに関心を持っていますが、『歴史』にはそう いった事例がたくさん散見される。ペルシャ戦争が 主題ですが、エジプトやリビアの話も出てくる。一 見脱線してるかのように、そこに住む人の習慣風俗 とかにもすごい関心をもって探究しています。新し いと思っていた社会史、でもその源泉が古代ギリ シャのヘロドトスにあったというのは驚きです。今 度「アフリカの歴史」という科目ができますが、こ こでもヘロドトスのお世話に。佐藤先生はヘロドト スとともに"歴史の祖"と並び称されるトゥキディ デスに関する論文を著していますが…。

佐藤 プラトンやアリストテレスは、立派な人とは、 立派な国家とは何かを探求しますが、トゥキディデ スはその人や国家が破れていく過程を客観的に写実 しています。また未完で終わっているところが私に は意義深く、彼の歴史書に熱中しました。もちろん、 ヘロドトスの『歴史』なしにはこれもあり得なかっ たのですが。

井口 『歴史』は加えて目的が明確ですね。冒頭に "私がこの歴史を記すのはペルシャ人との間に起こっ た事績というものを忘れ得ぬように記すためである" というような下りがあります。ここにも徹底的に探 求するといった姿勢が見てとれます。

宮下 挫折した本の一つです。でも随分と増刷され

ている。岩波文庫〈松平千秋訳〉で2010年で49刷。 なお、2014年度には、井口先生と「ヨーロッパ文学 を読む/古典編」というのを担当します。その第 1回目のテーマがヘロドトスで、松平先生門下の中 務哲郎先生が話をされることになっています。

西洋古典2冊目 🍱

#ロ エミリー・ブロンテの『**嵐が丘**』――中学生 の時に病みつきに。人間の深い情念を巡るドラマを 当時どれだけ理解できていたのか疑問ですが、何度 読み返しても面白みが失われない。原書で読んだの

は大学生の時。複雑に絡む 人間模様の語り手として古 女中ネリーを登場させるな ど形式的にも工夫が。

佐藤 私は、ヘーゲルの 『法の哲学』。一字一句、 ピリオド、カンマまで追い 井口

無准教授



回し翻訳しました。真の近代社会・国家の常識とい うものを徹底的に思索しており、200年前の作品で すが現代にも通じます。

草光 国家と社会の二重性について深く考えていま すね。私が学生時代に傾倒した初期マルクスにとっ て、ヘーゲル左派の文献、とりわけ『法の~』は避 けて通れない重要なものでした。ところがヘーゲル を研究されていた三浦和男先生に「つくづくお前は ドイツ語が出来ないな」と言われて原書は挫折…。 とにかく斬新で西洋社会を見る目は突出しています。

井口 哲学書を読もうとすると言葉の壁に…。

宮下 ヘーゲルはわかりやすいドイツ語を?

佐藤 いやいや、この内容ならもっと易しく言える のに、というのはあります。ただ、むやみに普通の 言葉にすると却ってわからなくなってしまう。カン トとともにドイツ近代哲学の両雄ですが、ドイツ人 にとっても難解です。

宮下 それを聞いて安心しました (笑)。続いて私。 16世紀フランスの哲学者モンテニューの『**エセー**』 です。中世にはキリスト教との関わりで「告白録」 とかありますが、これは近代的な「私」の原点が見 てとれる。一部引用すると「…私はつましく輝きも

ない生活を披露するわけだが、それはそれで構わな い。人生についての哲学というものは豊かな実質を 伴った生き方にも、また市井の一個人の生き方にも あてはまるのだからこれでいいのだ。人間は誰でも 人間としての存在の完全なカタチを備えているので ある」。これが Que - sais - je ? (我何をか知る) に通 ずる。こういう発想をしたのは画期的です。

草光 宮下先生は若い時に読まれたのですか。

宮下 若い頃は読む気がしなかった。じじむさいと 思ってた。歳をとってから。すると味があるな、と。 佐藤 私は若いときに。この『エセー』とパスカル の『パンセ』が一冊になっていましたから。河出書 房の「世界思想大全集」です。私にはパスカルの方 が良かった。でもパスカルもカントもモンテニュー 抜きではあり得ない訳で、私たち人文系の学問をし ている者はモンテニューの系譜に乗っています。

宮下 パスカルはモンテニューの"いいとこどり" という気が。パスカルは、モンテニューが自分を描 いたことを"愚かな試み"だと、ルソーも『告白 録』の序文でモンテニューは横顔しかさらけ出して いない、と。批判するということは、それだけ『エ セー』の重要性を認識していたからだと思います。



草光 俊雄教授

草光 さて、次は私の2冊 目。ギボンの『ローマ帝国 衰亡史』、18世紀の啓蒙 主義を学ぶ上では外せない 古典です。思想史家ジョ ン・ポーコックのギボンに 関する著述によれば、当時

ギボンは反啓蒙主義のキリスト教に不信感を持っ ていて『ローマ帝国~』を出した時に無神論者と して批判されています。彼は、「人」に大いなる関 心があった。ローマ時代の人や風俗・風習に飽く なき探究心を燃やし、細部にこだわったヘロドト スにも通じます。歴史の持つ醍醐味というものが 楽しめる古典です。

井口 大学受験が終わった空白期に、同じ読むな ら絶対読む気にならないものをと〈中野好夫訳〉 でチャレンジしましたが、2巻の途中であえなく…。 草光 長いですからね。訳者もバトンタッチされ ていて最後は息子さんの〈中野好之訳〉です。

西洋古典3冊目

佐藤 3冊目は、1977年のノーベル化学賞受賞者イ 1917-2003 リヤ・プリコジンの『**混沌からの秩序**』。熱力学を 生命理論につなげましたが、その理論を一般向けに わかりやすくしたのがこの本。従って数式が殆どな い。当時私の中で行き詰まりがあって、発売と同時 に読み耽りました。自然科学者が人文科学者に向 かって "自分たちが面白がってるんだから、お前た ちもしっかりやれ"とそんな声が聞こえてくるよう で励まされました。いわば私にとっては恩人です。

井口 私は W.H.AUDEN Poems selected by JOHN FULLER を。フラーという詩人が選んだ W・H・オーデンの小さな詩集です。日常的なトピッ クを題材に平易な単語で、でもその切り込み方はすご くリズムも力強く、深く考えさせられます。ヒュー・ グラント主演の映画『フォー・ウエディング』で引用 された 'Funeral Blues' は有名です。「時計を止め よ 電話を切れ、骨をしゃぶらせて吠えつく犬を止 めよ、ピアノもドラムも止めよ、棺を出せ…」。

草光 オペラ作曲家ベンジャミン・ブリテンとのコ ラボですね。 'On This Island' もそうです。

宮下 学生の頃愛読しました。『見るまえに跳べ』 『われらの狂気を生き延びる道を教えよ』…大江健 三郎の小説のタイトルにも引用されています。

次は私の3冊目。『イソップ寓話集』。イソップな んてもういい、と思われるでしょうが、長い年月を かけて成長してきた本です。動物寓話だけではない。 岩波文庫のものには「間男する話」や「出来ない事 を約束する男」といったものまであり、それなりの 教訓も。もう一つお勧めする理由は、日本で最初に 紹介されたヨーロッパ文学であるということ。1593 年に天草で印刷されたキリシタン版『エソポ物語』 は大英博物館に1冊残るのみ。『広辞苑』初版の編 纂著者でキリシタン版の研究で知られる新村 出はそ の1冊を手書きで写して再び日本に紹介した。そん なドラマにも興味ひかれます。

草光 一般人の言葉で書くと差し障りがあるので、 奴隷の言葉で書いている。権力者に対して批判的に。 **宮下** イソップは奴隷で、いろいろ苛められて機知

で乗り切るが、最後は殺されちゃう。キリシタン版 にはそういうことも書いてある。言葉遣いも狂言… 太郎冠者、次郎冠者に近いノリで好きですね。

草光 西洋古典の最後に19世紀のウィリアム・モリスを。日本では壁紙や家具のデザイナーとして知られますが、ケルムスコット・プレスという出版社を興して、とにかく美しい本を作ろうと私家版制作に勤しんだ。美しい芸術が生まれない世の中は良い世の中ではないと共産主義者となって、最後は政党まで作ってしまう。作品としては『ユートピアだより』『ジョン・ボールの夢』辺りでしょうか。とにかくエネルギッシュ、政治・小説・詩・デザイン、何でもゴザレの大変魅力的なビクトリア朝英国人です。

佐藤 チョーサーのケルムスコット・プレス版は有名。私もね、買おうかと。でもあまりに高くて…。

草光 英国は、関東大震災後の東大にケルムスコット一式を寄贈しています。さて、次は日本の古典へ。

日本の古典

佐藤 最後まで堅い本で 1889-1960 申し訳ない。和辻哲郎の

『日本倫理思想史』です。 日本書紀・古事記の神話 時代から明治まで、日本 人とはどういうものかを 思想史的に捉えた大変な



佐藤 康邦教授

労作です。とかく日本思想史は悪く言われがちですが、西洋哲学の手法を使いながらも、日本思想史の 面白さが存分に引き出されています。

宮下 私は志賀直哉の唯一の長編『暗夜行路』を。 白樺派で私小説で、漱石、鴎外に比べると総じて評価は低い。でも読み直してみるとそれだけじゃない。 戦後を代表する"知の巨人"加藤周一は「志賀の世界は同世代の谷崎と比較すればはるかに狭い」「全体の緊密な構成に欠ける」と。確かに…でも面白いことも言っている。「この小説は日本の絵巻物だ」と。さまざまな評価はあるが、日本近代文学の一つの金字塔として読むといろいろな考えが湧いてきて面白い。谷崎のフランス語訳は出ているが、志賀の長編は出ていない。私は文学の本質の一つに「翻訳 できないこと」があると考えていますが、そんなことを考えながら読むのも面白い。

草光 谷崎のは論理的で西洋の言葉に転換しやすい。 "小説の神様"志賀直哉の文章は表現が洗練されてい るだけに翻訳しにくいという面はあります。

井口 私は逆に過剰に翻訳されている村上春樹の『ノルウェーの森』を。存命なのに? 実は、この作品は古典に関する本だと私は思うのです。例えば、東大生「永沢」は主人公「僕」がフィッツジェラルドの『グレート・ギャッツビー』を読んでいたことから親しくなります。「それはいい。…死後30年経たない作家を読むのは俗物だ」と言った「永沢」の愛読書はダンテ、ディケンズ…。「僕」がヘルマン・ヘッセの『車輪の下』を再読する場面も。古典に関する話という文脈で読むのも面白いかと。

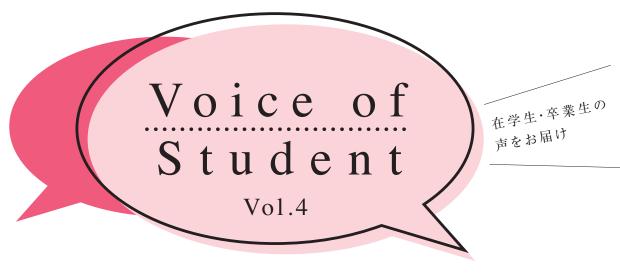
草光 『ノルウェー~』は学生運動の時代を背景としていて読むと切ないですね。あの頃と同じ空気が流れていて…。最後に、森陽外の史伝『澁江抽齋』を。英国留学の際、ケンブリッジ大の図書館で手にして虜に。では面白い話かというとそうでもない。鴎外は武鑑(武家の紳士録みたいなもの)蒐集の中で澁江抽齋の蔵書印を多く見つけます。自分と同じ医者で蔵書家。俄然関心を持って抽齋を調べますが、その追っかけ方がすごい。抽齋の子孫に会い、墓標を調べたり。史伝というものの初々しさがあって、今日の歴史学のパイオニアと呼べる作品です。

佐藤 出た頃は、何だこれは?と思われたほど斬新だった。私は愛読しましたが、続く『伊澤蘭軒』は延々と戒名が出てきて…。抽齋の奥さんがすごい。

草光 そうそう、強盗に囲まれた抽齋を助けに風呂場から半裸で短剣を口に立ち向かう…確か名前は五百。あの場面は盛り上がる。三島由紀夫も感銘を受けたと言っている。…さて、時間が来てしまいました。

宮下 私は若い頃、古典は読まなくてはいけない、 という抑圧の中で読んでいましたね。で、結局挫折 というパターンを繰り返した。でもある程度成熟し てまた読むと発見が多い。人生の宝だと思います。

草光 学生の皆さんも、古典を読んで、その余韻の中で知の発見をし、さらに知への欲求を高めてほしいと思います。本日はありがとうございました。



今号の声

被災地域で学ぶ仲間たち

3月11日の東日本大震災で、多くの方が被災されました。被災地域には学習センターやサテライトスペースがあり、この震災で、生活が大きく変わった在学生の方々もいらっしゃいます。今回は、被災地域で学びを続けている在学生を紹介します。それぞれの境遇で、学ぶことへの思いをうかがいました。

case 1

被災地に足を運び、 現場を自分の目で見てきました。 自分に何ができるかを、 これからも学び続けながら 考えていきたいと思います。



上野 光弘さん 修士選科生 ハ戸サテライトスペース

私は、青森県八戸市に住んでおります。3月11日の 東日本大震災において、八戸市は沿岸部を中心に死 傷者や多くの住宅被害がありました。八戸港の物流 拠点機能の麻痺、八戸漁港の生産・流通機能の麻痺、 臨海部立地企業群の生産活動の停止、農地や栽培施 設の被害など、被害額は6月時点で911億円と八戸市 の年間予算を上回るほどです。

私は修士選科生ですが、学部時代に「都市と防災 ('08)」を学んでおります。

日本は、恵み豊かで景観の美しい国土を有している 一方で、地震や火山、洪水や土砂災害、都市火災など、 多種多様な災害が多発する国であり、この特徴は表裏 一体の関係にあり、地理、地形、気象的諸条件や都市構 造によるものであること、津波に関しては、明治29年の明治三陸地震で岩手県綾里村(現在の大船渡市)では、津波遡上高さ38m、死者不明者2万2千人であったこと、水深10mでも時速36km(100mを10秒で走る速さ)と津波の速度は凄く速いこと等を学びました。

私は水道事業に携わっており、3月に宮城県石巻市 へ運搬給水支援に行き、7月からは岩手県大船渡市へ 12月までの予定で技術支援中です。3月は被災直後の ため、生きるための復旧との印象でしたが、現在の支 援は、一先ず落着いた後の復興への手順であり、支援 内容の変化からも日常への回復が感じられます。

私は技術士であり、技術士法第47条の2で「資質向上の責務」が課せられており、その一環として放送大学を活用しています。

科学技術の巨大化・総合化・複雑化が進み、また、グローバル化が強まった現代社会では、論理的考察や課題解決能力が問われ、トレードオフの関係が含まれた課題の中で多様な価値観を踏まえた最適解を求められます。解はその時点で最善と考えられたものが、価値観の変化や技術進歩によって将来変わることがあります。

変化の激しい中、社会要求に応えるため、総合的な技術監理と高い倫理観を持って将来の社会変化と技術進化を予測し、その時点での最適解を求める。これは公益確保のために必須であると考えます。

10 on air $n_0.104$

復旧・復興支援に実務で携わることにより、実際の 被災現場を自分の目で直接見る機会を得、今後自分 に何ができるか問うてみたいと思っております。

case2

恩師の励ましで 「学ぶ初心」に戻れました。 震災で亡くなられた方々の分まで、 「我々がやらねば」という 想いでいっぱいです。



原田 政昭さん 全科履修生(心理と教育) 岩手学習センター

震災の当日、私は勤めている岩手県立・大船渡病院で勤務中でした。その日は交通網が封鎖され帰宅できない状況でした。自宅のある釜石市は、その後もライフラインの復旧に時間がかかりました。情報網もインターネットは4月まで使用できず、光ケーブルはさらに後の時期になってからでした。また、郵便局も無くなってしまい郵便物の配達や配送などもストップしてしまった状況でしたから、とても学習するような環境ではなかったのです。しかし、そのような物理的な問題以上に、周囲の状況を見れば、会えずにいる人を探す方々、生きるための水を確保する人々などがまだまだたくさんいる状況が続き、そんな中で自分だけが「教科書を開いて勉強していていいのか」という気持ちにすらなっていましたね。

この危機的な状況の中で、勉強することの意味すら失いかけていました。同時に、もともと学習のために活用していた地元の視聴施設も使用不能となり、気持ちの上でも、学習環境の面でも放送大学での学びを継続することがきわめて困難でした。そんな時、東京にいらっしゃる高校時代の恩師から、5科目の映像を焼き付けたDVDが届いたのです。その恩師の方も、もともと放送大学の足立学習センターで学ばれていた経験があり、放送大学の科目や映像授業のことにも理解があったので、私の状況を見かね、学習のサポートにとわざわざ手配してくださったのです。様々な偶然が重なったことも確かですが、この状況

下での出来事に私は心から感謝し、本当にありがた く感じました。「こんな時こそあきらめずに頑張ろ う!」という無言のメッセージをいただいた気がし て、学び始めた時の「初心 |に戻ることができたので す。私は大船渡病院では精神科に勤務し、「アルコー ル依存症」の改善を図るミーティングを担当してい ます。その現場で様々な方々に関わるうちに、「単な る看護師ではだめだ、もっと相手の心とつながるこ とができなければ… |と感じ、その想いが「心理学 |を 学ぶ動機となりました。もうひとつ、心理学を学ぶこ とで見え始めていたことがあったのです。それは、個 人的なことなのですが、20代の時に母を亡くしたこ とです。長らく私は、母を救うことができなかった自 責の念にかられていました。その気持ちを克服する ためにも、逃げてはならない、立ち向かうためにも 「心の問題 |を学ぼうと考えていたのです。仕事のス キルアップ、そして人生を振り返り、乗り越えていく こと。それが私の学びの原点だったのです。自分ひと りで勉強しているのではない、皆さんのおかげで、そ して、さらに皆さんのお役に立つために学んでいる のだと。学び続けることは、誰かの役に立てる「自分 | を再構築するための作業だと思います。阪神・淡路大 震災のときも、神戸では、震災後の仮設住宅の暮らし の中における「心のケア」が大きな課題となっていま した。これから、東北エリアでも、こうした「心のケア」 はますます重要になってくると思います。何らかの 形で、私の学んだことがお役に立つこともあると 思っています。また、私の娘も、私と同じ医療の道を 歩み始めました。こうした若い力も必要となってく るはずです。私自身も若い方々の良きアドバイザー でありたいと思いますし、そのことが、これからの課 題に立ち向かっていく力になり、励みになっている ことも事実です。今回の震災は、とても多くの人々の 心を痛めつけ、私たちの前に困難をつきつけました。 地域の保健スタッフの中でも、患者さんを助けよう と、自らの命を落とした方もいらっしゃいます。陸の 孤島となった状況下で、給水活動など、大きな力と なってくれた自衛隊の方々もいらっしゃいます。ガ ソリンが無くなった時に、病院の車を「緊急車両扱い」 としてくださり、ガソリンを足していただくことも

ありました。様々な人々の力や想いが重なり合って、

ようやくここまでたどり着いてきたというのが実感です。私自身も、私の家族も、なんとか運よく生き延びることができたので、震災で亡くなられた方ができなかった分まで、「我々がやらなければ」という想いでいっぱいです。

case3

放送大学で「危機管理」を学び、 教員としての指導や研究を通して、 学生たちにも伝えていきたいです。



北山 玲子さん 修士全科生(生活健康科学プログラム) 宮城学習センター

私は、宮城県の仙台から車で20分ほどの距離にあ る利府で震災にあいました。内陸部だったこともあ り、幸い津波の影響などはなかったのですが、自宅が 地震により半壊するなどして、その改修に時間がか かり、ようやく日常生活が回復してきたところです。 現在、東北文化学園大学・医療福祉学部看護学科の教 員として勤務し、「母性看護学」を担当しています。放 送大学では危機管理分野を幅広く学べることを知り、 入学しました。「災害」や「安全」など、人々の生活をど のように守っていくのかということに興味があった のです。また、勤務先の大学の授業でも、こうした知 識はますます重要になってきますし、「母性看護」の 領域でも活かせると思い、学んでいます。学習方法は、 印刷教材でやるしかない状況でしたが、いったんく じけると再度スタートしにくいと思い、睡眠時間を 減らして学習し、やる気を持ち続けるようにしてい ました。研究計画も変わってきたので、生活基盤が回 復してきた今から、研究に傾注していきたいですね。 現実的にも、震災後に研究テーマにつながるような 様々な体験をしました。その一つは、石巻地域へボラ ンティアとして参加し、被災地の各世帯を訪問して 回ったことです。その時、糖尿病の患者さんが、服用 していた薬が手に入らなくなり、足が壊死を起こし 始めている状況など、災害時の医療問題が目の前で 浮き彫りになっている状態でした。また、私の教え子

の学生たちも、自分でも認識しにくいストレスによ り、体調不良や生理不順などの問題を抱えて、相談に やってくることが多くなっていたのも事実です。こ のような現実を目の当たりにする中で、ますます「災 害時の危機管理問題 | の重要性を感じています。放送 大学での学習は、こうした現実的な課題に立ち向か うために、私にとって不可欠なものとなってきまし た。今後、さらに研究を深め、学生たちへも専門的な 知識をフィードバックしていきたいと考えています。 学生が3年次になると学ぶ「災害看護学」という科目 があります。今回の震災について、同じ状況下で被災 した学生たちとも語り合い、「災害と母子」という視 点で、災害時の看護について共に掘り下げていきた いと思っています。被災体験をプラスに転じ、学問的 にも、自分をより高めていきたいのです。勉強するこ とで、また新たな意欲がかきたてられるということ もあると思います。これから放送大学で学ぶことを 考えられている方々も、ぜひ、思い切って次のステッ プへ飛び込んでいただきたいと思っています。私自 身がそうであったように、「自分を少しでも高めた い | 「勉強して新しい知識を吸収してみたい | という気 持ちを持っていれば、放送大学は、その気持ちに応え てくれるところだと思います。様々な困難が立ちは だかる状況ですが、前向きな気持ちを継続させてい きたいと思います。

case4

仮設住宅での暮らしをベースに、 普通の生活を軌道にのせるため、 「学ぶ時間 |を大切にしています。



榛葉雅男さん 全科履修生(自然と環境) 福島学習センター

福島原発の避難エリアに居住していたため、現在 私は「仮設住宅」で生活しております。ここに住める ようになる前に、避難所を2回移りました。

避難所生活ではプライバシーも保てず、消灯が9時 の場所や10時の場所など、さまざまな制約があり、そ

12

れこそ学習をするような状況からほど遠い日々。その中でも、通信指導を提出し、再開した郡山にある学習センター(被災のため、4月中はほとんど使えず)に通いました。そして6月末にようやく仮設住宅に移ることができました。少しずつではありますが、「日常生活」を取り戻しつつあります。新たに移った仮設住宅での暮らしをベースに「普通の生活をする、日々を軌道にのせる」ために学び続けていこうと考えています。「普通」を維持するために学習時間がとても大切な時間になったといえます。

縁があって福島に越してくる前は長年、高校で化学の教師をやっていました。10年ほど前に放送大学の存在を知り、幅広い理系分野が学べそうなので、宇宙関係の科目を中心にこれまでは選科履修生として学び続けていました。この4月からは全科履修生として「自然と環境コース」に申し込むつもりでした。しかし、震災後の時期に重なり、避難生活の中で勉強自体が続けられるかどうか、3月末の締切ギリギリまで迷っていたことも事実です。自宅でのビデオ学習はできず、教科書中心の学習にならざるを得ませんで

したが、宇宙から数学、語学まで幅広い科目に接する ことで学ぶ喜びが戻って来ました。継続していくこ とで、「自分の芯」となるものができてくる楽しみも 感じることができます。

今では、原発から20km、30km圏内の子どもたちとともに、寺子屋的な私塾のようなボランティア活動も行っています。自分自身も学び続け、それを次代を担う子どもたちへ受け継ぎ、つないでいく。初めは自分自身の興味、関心を広げていくために履修を始めた放送大学でしたが、ここでの経験を自分の枠だけに留めずに役立てていければ幸いです。まだまだ、本当の意味での日常回復に至っていませんが、学び続ける時間そのものが「普通の生活」を取り戻す一歩であると信じて、これからも取り組んでいきたいと思っています。

最後に義援金や授業料減免措置など、全国の学ぶ 仲間や放送大学の皆さんからのご配慮に心からお礼 を申し上げます。…そして一言。この状況をのりこえ 進むには一人では難しかったのではと思います。

Thanks to my best partner!

report

被災された学生の皆さんへ 福島学習センター所長 北村 寧

東日本大震災と福島第一原発の事故から8か月余りが 過ぎました。未曾有の被災・避難に遭遇し、現在でもな お、多くの皆さんが苦労・困難・不安を抱えて毎日をお 過ごしのことと思います。

皆さんには、何よりも「学びは希望である」という言葉を送りたいと思います。大阪学習センター機関誌『みおつくし』第42号(7月発行)にNさんの手記が載っておりました。当時55歳だったNさんは阪神淡路大震災で被災し、仮設住宅に住んでいる時に放送大学を知り、入学したそうです。その後16年間学び続け、今年3月、全6専攻を修了され、「名誉学生」の称号を授与されました。そのNさんが次のように書いています。

「被災すると生活や仕事、家族や病気等、種々の悩みや問題が発生し、生きていることに絶望感が漂ってきますが、学ぶことによって心が癒され希望が出てきます。 ガレキの中で今さら勉強なんてなんの役にも立たないと思うかもしれませんが、被災者だけでなく、周囲の人々も今起こっていることやこれからの生き様を検証するには、多くのことを学ぶ必要があると思います。」

「絶望感」が漂う中でも、学ぶことによって心が癒され希望が出てくる、というのです。被災を体験した人ならではの迫真力ある言葉です。



被災地の学生に対してこれ以上の励ましはないと思いま す。人は学びによって希望(生きる勇気)を与えられる のです。

放送大学学歌に「見えない友と 共に生き 共にまな ぶ」という件がありますが、皆さんは全国8万数千人の 「見えない友」とつながっています。決して「一人ぼっち」ではないことに意を強くしてください。大震災以降、 新潟、岐阜、岡山、三重、大阪の各学習センターの皆さんが当センターにメッセージ、寄せ書き、文集、義援金等々を送ってくださいました。私はこれを目の当たりにし、これこそが「見えない友」との絆だと実感しました。 去る10月1日、当センターの学位記授与式で「御礼のことば」を述べたYさんは、全国の学習センターからの激励メッセージに言及した時、声をつまらせ、涙ぐみました。全国の仲間たちとの「人間的連帯」を感じる一瞬でした。

「ひと学」への招待('12)-人類の文化と自然-

放送大学教授 内堀 基光

私たち人間とはどのような存在なのだろうか。人文科学、社会科学はすべて、そして自然科学もその一部は、それぞれの視点から、この問いに答えようとしているわけですが、わざわざ「ひと学」を名乗るこの講義では、人間という存在がほかの生物と比べて、どんなところにその特徴があるかということに焦点を当てることになります。われわれにいちばん近い動物である霊長類をも視野に入れながら、人間社会の特質、人間文化と呼ばれるものの特異性を示し、その特質・特異



性の現れである多様性について語ってゆきます。自然にもとづく人間の文化というのが、その基本的な視点だと言って良いでしょう。これを抽象的な思考にとどめることなく、できるだけ具体的・実証的に語ってゆくつもりです。これにより、高校教育での地歴科や公民科、理科の生物といった垣根を越えて、大学にふさわしい広い視野と新たな発想のもとでの学習の導入が図れれば良いと考えています。

近代哲学の人間像('12)

放送大学教授 佐藤 康邦

本授業は、すでに開講されていた『現代を生きる哲学』('07)を踏まえ、そのうちの近代哲学に関わる部分を拡大したものである。内容は、近世から20世紀までの哲学者、したがって、ルネッサンスの人文主義者達、デカルト、スピノザ、パスカル、ヒューム、スミス、カント、ヘーゲル、マルクス、ニーチェ、マッハ、ベルクソンといった哲学者達の思想を扱うものとなっている。これらの哲学者については、その名前ぐらいは知っているが、実際の内容のほうは一向にという方々は多くいらっ



しゃるのではないかと思う。しかし、私たちが生活している近代社会、私たちが享受している近代科学、近代文化というものは、それを支える哲学があって成り立っているのである。本授業においては、個々の哲学者の思想の紹介をするだけではなく、彼らが体現しているそれぞれの思想内容同士を対決させて、哲学がどのような問題を扱う学問なのかを明らかにすることが試みられている。

経営学入門('12)

放送大学教授 (社会と産業) 小倉 行雄 関東学院大学教授 齊藤 毅憲

本書は、経営関連科目の土台となる導入用の経営 学テキストである。このため、広範な読者層が経営の 基礎をつかみ、自分の目で経営の諸問題をみることが できるように心がけた。また、読みやすく、わかりやすい 記述にも努めた。

しかし、本書は単に定型的な入門書、定説の祖述だけに終わる教科書ではない。入門書であっても、これまでの経営学のとらえ方に不十分さを意識するなら、その手直しに挑戦するのが望ましいのはいうまでもな





い。そこで、標準的な内容を伝えることは守りつつも、 経営学のとらえ方や、その全体像のとらえ方を筆頭に して、いくつか新機軸を入れ込んだ。より具体的には、 第1に経営の考え方に焦点を合わせ、その体得がで きるようにした。第2に、経営の現実把握と理論的なも のの結びつけを図った。第3に、本書が現実の経営問 題の解決に役立つ「使える経営学」の基礎になること を意図したことである。

14 on air $n_0.104$

韓国語入門 I ('12)

神田外語大学教授 浜之上 幸(放送大学客員教授)

SMAPの草彅剛が韓国語を上手に話し、K-popの歌手の中に日本語が流ちょうな歌手がいます。このように忙しい芸能人でも芸能活動を続けながらマスターできてしまう日本語と韓国語の関係を考えると、何か特別な類似関係があるということが容易に考えられます。

日本語と韓国語は、インド・ヨーロッパ族のような系統 論的な類縁関係が証明されていません。しかしながら、 1) 語順がほぼ同じであること、2) 助詞を用いて体言 の文中での働きを示すこと、3) 用言が活用しそのあと



に語尾がくっついて単語の形になること、4)総語彙数のほぼ50%が中国から渡ってきた漢語が用いられていること、など類似点が多くあります。よって、入門期に苦労するハングルという文字の形と発音、及びさまざまな音の変化という難所を越えれば、急激に易しくなります。この日本語と一番似ている外国語を一緒に学んでいきましょう。

社会保険の現代的課題('12)

山口県立大学教授 田中 耕太郎 (放送大学客員教授)

社会保険は、19世紀末に創設されて以来、これまでに医療保険、年金、労災保険、雇用保険、そして介護保険の5つの領域に広がり、日本を含め多くの国で福祉国家の中核をなす制度として発展してきました。

しかし、長年にわたる改正を経て制度は複雑化し、加えて、近年の経済の低迷、少子高齢化の進展、国の財政悪化、さらには最近の非正規雇用の増大などの要因も加わって、社会保険を取り巻く環境は厳しく、その将来についての不安や不信も増しています。



そこで、この講義では、まず、日本の社会保険の各領域について、その基本となる仕組みの構造を正確につかみます。そしてその理解の上に立って、制度が抱える現代の課題を取り出し、社会保険の母国ドイツの取り組みにも触れながら、改革の選択肢や方向性について、ご一緒に考えてみたいと思います。

「社会保障や社会保険を一度体系的に学んでみ たい」とお考えの皆さんの受講をお待ちしています。

乳幼児心理学('12)

中央大学教授 山口 真美 日本女子大学准教授 金沢 創(放送大学客員教授)

誰もが遠い過去に通過した、乳幼児期。にもかかわらず、乳幼児期にある子ども達のほんとうの姿は、なかなか伺い知ることはできません。日常の観察から知ることのできる乳幼児の姿は、本来持っている能力のほんの一部にすぎないのです。この授業では、さまざまな手法や最新の技術を駆使した実験を紹介しながら、乳幼児の隠れた能力を見いだしていきます。赤ちゃんの視力や赤ちゃんが見える色、赤ちゃんから見たお母さん、言葉の聞き取りや社会的なやりとりの発達…乳





幼児を対象とした研究を行っている日本各地の大学を訪ねながら、最新の研究の様子を紹介していきます。 実際の乳幼児実験の映像をふんだんに使った、放送 大学でしか見ることのできない、映像による授業です。 身近な赤ちゃんの隠れた姿、赤ちゃん達の驚くべき姿 を楽しみながら、乳幼児の隠された能力をしっかりと 学んでください。

市民生活と裁判('12)

川島法律事務所弁護士 川島 清嘉 (放送大学客員教授) 放送大学 來生 新

市民生活と裁判は、法裁判員制度などに代表される、 現代日本の日常生活の中で否応なしに経験する裁判 にかかわる多くの紛争や、現象を取り上げます。法律知 識を十分に持たない一般市民が、法律専門家の援助 を受けて、裁判等の紛争解決制度をどのように利用し うるのか、そもそも市民生活における紛争解決の必要 性や機能が何かという問題を共通課題にして、交通事 故、刑事、家族、消費者、企業と労働者の関係、行政と 市民の関係等々の具体の事例を素材にした講義が展 開されます。





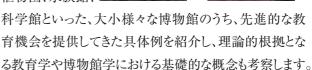
このようなねらいから、授業を担当する講師陣も研究 者ではなく、日常的に市民と接して、法律問題の解決に 力を貸している弁護士の皆さんにお願いをしました。私 以外は、横浜弁護士会で活躍されている働き盛りの先 生たちが講師で、これまでの経験を活かして、しかもテ レビというメディアの効果をフルに発揮する授業を展開 しています。皆さん、面白くてためになり、なおかつ学問 の香りも高いという、放送大学以外ではまずありえない ユニークな科目です。ぜひご覧になってください。

博物館教育論('12)

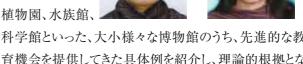
国立西洋美術館主任研究員 寺島 洋子 慶應義塾大学非常勤講師 大髙 幸 (放送大学客員教授) (放送大学客員准教授)

『博物館教育論』は、学芸員資格取得に必要な科目 のひとつです。けれども、この新設科目は、これまで博物 館を利用したことのない方々を含め、人文科学系、自然 科学系といった様々な学問分野の研究に取り組み、日 常生活の中で幅広い関心を持っている、放送大学の多 くの学生の皆さんが、博物館によって提供される様々な 教育機会を、自在に活用できるようになるための入門科 目でもあります。

入門者に役立つように、美術館、歴史民俗資料館、動



学際的な学問領域である博物館教育の基礎を理解 し、博物館を利用できる能力を醸成するために、受講者 の皆さんは、相互に補完しあう印刷教材と放送教材の 両方を活用し、自己の関心分野に関連する博物館を実 際に利用することが必要です。



社会福祉と権利擁護('12)

放送大学教授 大曽根 寛

この科目は、社会福祉における人権について、権利 の侵害事例、具体的な活動などを取り上げながら、制 度・事業を活用する当事者、家族、あるいは専門職や 市民のそれぞれの位置に立って、問題を多面的に取り 上げるという手法を用いる授業です。社会福祉が大き な改革の時代を迎えている今日、社会福祉がかかわる 領域において、人権の理念を想起すべきことがらが大 変多くなっています。そこで、この授業では、人権を基 礎に、現代的な権利侵害に対する解決方法を考えたり、 寛

権利侵害の予防の実践的な課題にも応えようとしてい ます。つまり、本教材は、社会福祉の領域と法の世界の 接点において、どのようなことが問題となるのか、いかな る解決策が考えられるのかを探っていこうとしているの です。ただし、この科目は、社会福祉に関する基本的な 学習終え、また法学に関する基礎知識を有する学生の ための「総合科目」ですので、福祉に関する科目と法律 学に関する科目をあらかじめ履修しておいてください。

2012年度大学院開設改訂科目紹介

居住環境整備論('12)

宇都宮大学名誉教授 藤本 信義 千葉大学大学院教授 小林 秀樹 (放送大学客員教授) 林本 信義 (放送大学客員教授) 小林 秀樹

今日の社会課題の一つである居住環境整備は、新 規開発から既存のコミュニティの再生に重点がシフト する中で、行政や民間ディベロッパーに依存した従来 の手法では限界が見えている。居住者参加型の活動 やプロジェクトが増えつつあることが、それを物語って いる。本講義では、住民主体の意義を考察するともに、 活動推進に必要な知識や手法を提示する。内容は、 前半が住まいづくり、後半がまちつくりの2部構成となっ ている。





講義の目標は、

第一に、様々な場面で取り組まれている居住環境の再生・整備の諸相を知ること、第二に、その背景にある社会情勢や住民主体の考え方を理解すること、第三に、プロジェクト推進に必要な事業手法や法制度、及び住民と専門家等の協働のあり方を学ぶこと、第四に、居住環境整備の今後の展開について自分なりの考えを育むこと、である。これらを通じて、個々の住民として、あるいは活動を支える専門家としての必要な知識を習得する。

パーソナル・ネットワーク論 ('12)

放送大学教授 森岡 清志(社会経営科学プログラム)

パーソナル・ネットワークは人と人とのつながり、人間と人間との紐帯を意味する学術用語です。パーソナル・ネットワーク論は、人と人とのつながりが個人の態度や行動にどのような影響を与えるのか、また逆に個人の形成するつながりが社会にどのような影響を与えていくのか、これらの点を明らかにし説明する理論です。個人が社会に規定されながら同時に、主体的に社会に関わっている、個人と社会との動的な関係を実証科学の武器を用いて解明しようとする学問領域と言えます。



人と人とのつながりと言っても、集団や組織の中のつながりもあれば、集団や組織を形成しないつながり、たとえば友人たちとのつながりもあり、また友人の友人のような間接的なつながりもあります。このような集団や組織を形成しないつながりや間接的なつながりこそ、ネットワークと表現するのがふさわしいつながりと言えます。この科目がパーソナル・ネットワークに関心を抱いている方々の学習の手助けになれば幸いです。

情報学の新展開('12)

放送大学教授 川合 慧(文化情報学プログラム)

情報の情報たる所以は、それが抽象的なものであることです。なんかコンニャク問答のようですが、このことこそが、今日の情報社会の本質であり基本となっているのです。抽象的なものですから、私たちの目の前には様々な形、やり方、状況となって出現します。その範囲は、コンピュータやカーナビ、ATMといった触れられるものから、将棋や囲碁のゲームプレイ、法的な規律や国際関係、美と快を追及する芸術の分野、さらには人間の考え方や行動様式にまで及びます。これらの諸分野の項目を、その拡がりと個々の適用領域に目を奪われることなく、情

報の概念を中心として把握し体系化 する学問を情報学と呼びます。

沿合 慧 教授

そうは言っても、たった一つの科目でこの広大な諸分野をカバーすることは無理ですから、本科目では情報学の全体像を理解する上で有用ないくつかの分野を取り上げて話を進めてゆきます。具体的には、ロボット、人間の認知と現実との融合、生命と芸術、情報と法・政治、それに教育環境を取り上げ、全体として、情報とは何か、どう扱うべきなのかを学び、情報学が向おうとしている進路を理解することを目的としています。

学 꾈 だ セ ょ

佐賀学習センターについて

公園の中の佐賀学習センター

佐賀学習センターは、佐賀駅から南西方向徒歩 10分(0.8km)のどんどんどんの森公園の中にありま す。公園のなかにはアバンセ(佐賀県立男女共同参 画センター・佐賀県立生涯学習センター)と佐賀市 立図書館があります。そしてそのアバンセの4階に



公園を周回するクリーク

丘がアバンセ、右は市立図書館

クリークと樹木がほぼ矩 形に整備され、それに沿 って周遊道路が走ってい ます。周遊道路の内側に アバンセと佐賀市立図書 館がありますが、周遊道 路北外側には、地元の新

佐賀学習センターが入っ

ています。公園の周囲は

聞社、ケーブルテレビ会



社など情報、報道、放送関係の会社があります。

放送大学佐賀学習センターの入居しているアバン セの西隣はゆったりとした緑の広場を挟んで佐賀市 立図書館があり、いずれの北側も広々した駐車場が あります。まさに交通アクセス、環境から見ても申 し分のないところです。

佐賀学習センターは視聴学習室 (90m)、事務室 (45㎡)、所長・教員室 (24㎡)、ロッカーや資料棚 を置いた倉庫(8㎡)、これにパネルで仕切った学生 相談等のスペース(13㎡)を確保しています。しか し、いずれの部屋も学生さんが落ち着いて会議や集



学習センターがλ居する「アバンセ」 外観



学生による史跡研修会

いを持てる状況ではありません。

各地の学習センターが、新しい東京文京学習セン ターのような魅力あるセンターに整備されていくこ とが望まれます。学生数や地域等々で格差がつくよ うでは、全国区の放送大学とは言えません。全国 隅々まで、同じ学生授業料を頂いているわけですか ら、基本的なサービスに差があってはならないので はないでしょうか。設備環境での不利益を当センタ ーではサービスで対応するよう頑張っています。

学生の皆さんを応援する雑学講座

佐賀学習センターでは、常時利用できるスペー ス、部屋が確保されていないのが欠点です。これを 補うべく学習センター教員・職員一体となって、佐 賀学習センターで学習して良かったといわれるよう な人的環境を創造していきます。そして、生涯教育 の場として、またリカレント教育の場としても充実 していくことで、学生の皆さんを応援していきたい と思い、「人間力を培う佐賀のがばい雑学講座」を

企画していろんな テーマで座学と現 地見学を兼ねた公 開講座等を開催し ています。



佐賀学習センター

佐賀市天神3-2-11 (アバンセ4階) 〒840-0815 JR佐賀駅から徒歩10分 電話:0952-22-3308

学生の力で、公開文化講演会を 企画・実施しました! 兵庫学習センター 全科優修生(社会と経済専攻) 城山 義見

サークル活動の活性化

平成22年3月頃、私が所属するサークル「生命と 人間を考える研究会」(SLH研究会と略す)で、会 員を増やしてサークルを活性化させるにはどうすれ ばよいか話し合った時、顧問の岡田先生から講演会 を開催してはどうかという提案を頂きました。

当時、代表幹事を務めていた私はそれから準備を はじめましたが、当センターでは学生が中心になっ て講演会を開催した前例がなく、人数の多いいくつ かのサークルに呼び掛けて話し合いを繰り返した結 果、主催は兵庫学習センターとして、企画・運営を サークルの有志で行なうことになりました。

企画と運営

関係者で議論を重ねた結果、講演会の開催目的を (1) 学生数を増やす、(2) 学生間のコミュニケー ションを活性化する、として公開の形で幅広く人を 集めることにしました。

ポスターとパンフレットをデザイナーで当学習セ ンター所属の学生にお願いして作成し、神戸市内の 図書館等で、PRに努めた結果、申込者は126名にな りました。

講演会は2月19日(土)に開催され、その内容はビ デオによる放送大学の紹介に始まり、講演は放送大 学兵庫学習センターのお二人の元客員教授にお願い して、それぞれのご専門である医学、経済学から テーマをお願いしました。講演1では「脳と心・脳の 成り立ちと働き」と題して岡田安弘先生に、講演2で は「EU(欧州連合)の発展と現状」と題して高橋秀 行先生にご講演をいただきました。当日の出席者は 106名で、当初の目標100名を超えました。講演の終 了後は希望者に学習センターを見学していただき、 その後、約50名で交流パーティーを開催して、サー クル紹介などを行ないました。当日は他の学習セン ターからの参加者もあって、賑やかな交流パー ティーとなりました。

講演会を終わって

当日は天候にも恵まれ、大講義室がほとんど満席に なるほどで、私を含め、関係者はほっとしました。

出席者には予め用意した講演会のアンケートをお 願いしたところ80名(75%)から回答をいただきま した。その内容を詳しく分析した結果、現在の世相 を反映して、医学や経済学に関心が強いことを伺わ せる意見や提案が多くあり、今後の企画の参考にな ると思いました。

今回、企画段階から学習センターと協議しなが ら、一体となって計画し、実施出来たことは今後の 学習センターと学生のコミュニケーションをよくす るきっかけになると思っています。これからこの講 演会をきっかけにして、どのように発展させて所期 の目的を果たすか、皆さんの意見を広く求め、長続 きする恒例行事になるように願っています。



高橋先生の講演 資料を使っての講演)





放送大学叢書最新刊刊行記念トークイベントを開催

2011年8月11日(木)に、東京・池袋のジュンク堂池袋本店に おいて、放送大学叢書最新刊、『西洋近代絵画の見方・学び方』 刊行記念トークイベントが開催されました。著者の木村三郎 先生(日本大学教授)に加え、美術史家の宮下規久朗先生(神 戸大学大学院准教授)、本学の青山昌文先生に、絵画の背景知 識を学ぶことの意義、芸術の抗しがたい魅力などについて熱 く意見を交わしていただきました。





(手前から)青山昌文先生、著者の木村三郎 先生、宮下規久朗先生



教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生

平成24年度第1学期の学生募集を以下のとおり行います。

平成23年11月15日(火)…平成24年度第1学期学生募集要項配布開始

出願期間	平成23年11月15日(火)~平成24年2月29日(水)
合否通知等	平成23年12月上旬~平成24年3月中旬
学費の納入	平成23年12月上旬~平成24年3月末
入学許可通知	平成24年1月下旬~平成24年3月末
印刷教材等の配送	平成24年2月下旬~平成24年3月末
授業開始	平成24年4月1日(日)

放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方 にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学 をお薦めいただきますようお願い申しあげます。

平成24年3月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成24年度 第1学期以降も引続き学習を希望される場合は、改めて入学手続 きが必要となりますが、入学料が割引になります。

・出願締切日は平成24年2月29日(水)<必着>です。



面接授業の「仮成績の情報提供 | について

学習センター支援室

面接授業の受講生に対して、履修計画を立てる上で、可能な限り早く成績評価を お知らせするため、平成23年度2学期から、学期前半(10月15日(土)~11月13 日(日))までに行われた面接授業の成績については、12月7日(水)に仮成績とし てシステムWAKABAへ掲載(学生カルテ→履修情報)いたします。

システムWAKABA(教務情報システム) 学生カルテ





履修情報

·この期間に実施した科目であっても、仮成績の情報が できない場合があります。仮成績の情報提供ができ ない科目については、キャンパス・ネットワークの面接 授業関係情報に掲載しています。

・この仮成績が、各種証明書等に反映されるのは、2月 下旬の成績通知が届いた後になりますので、ご了承 ください。



2011 (平成23)年度放送大学学位記授与式について

総務課

2011(平成23)年度学位記授与式の日程が次のとおり 決まりましたので、お知らせします。

日時:平成24年3月24日(土)午前11時00分から 場所:NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)



国立美術館キャンパスメンバーズ制度加入(予定)のお知らせ

学習センター支援室

平成24年4月から東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館の5館の所蔵作品 展無料観覧及び特別展・共催展割引観覧等の特典が受けられる国立美術館キャンパスメンバーズ制度への加入を予定しています。

先日、初めてTV講義を収録した。これまでにも大学で似た内容の講義 をやったことがあり、それと同じだろうと高を括っていたらとんでもなかった。 放送授業は45分で、それにタイトル等が入るので正味42~3分に収めな ければならない。そこで通常の90分用の講義内容から、無駄な部分を削 り落として原稿を作り、果たして45分に収まるか心配しながら読み上げて みたら、なんと30分にも満たなかった。私のこれまでの授業は2/3が無駄 だったのかと呆然とした。しかし、逆に言えば、間違えたり、脱線したり、繰り 返したりしない放送授業は、それだけ密度が濃いということだ。45分でも、 間違いなく90分の講義以上の内容が詰まっている。消化不良を起こさな いように、ぜひ録画して繰り返し咀嚼して欲しい。(加藤浩)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2011年度)

委員長 教授 松村 祥子 井上 洋士 委員 教授

教授 小倉 行雄

教授 高木 保興 教授 草光 俊雄

教授 本多 俊和 教授 松本 忠夫

教授 加藤 浩 准教授 岡崎 友典

編集事務担当





総務部広報課